

第1学年 組 道徳学習指導案

指導者

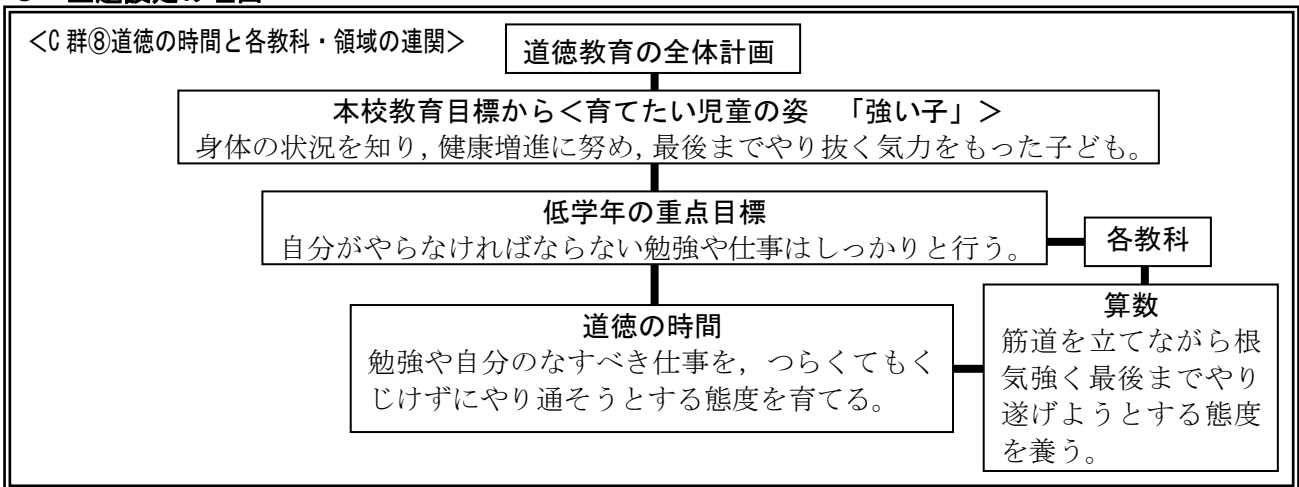
1 主題名 「つづけるところ」 低1-(2) (自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。)

2 ねらいと資料

毎日10分ずつ字の練習を続ける主人公の気持ちを共感的にとらえさせることを通して、勉強や自分のなすべき仕事を、つらくてもくじけずにやり通そうとする態度を育てる。

資料名：「1にち10ぷん」(光文書院)一部改訂

3 主題設定の理由



(ア) 本主題は、くじけず努力し、自分を向上させる子どもを育てようとするものである。人が健全な社会生活を送っていくためには、自分のすべき勉強や仕事は、少しの困難があっても途中で投げ出さずに続けようとする態度を養うことが大切である。続けることで得られる達成感や成成感、自己肯定感や向上心へとつながるものである。

また、児童が自立し、よりよく生きていくためには、何事にも粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力も求められる。それが自己を実現しようとする向上心と結びついてこそ、前向きな自己の生き方が自覚されてくるといえる。

したがって、やらなければならないことを素直に受け入れることができるこの時期に、基本的な課題である勉強や自分の仕事を自分でやるべきこととしてとらえ、続けて行うことの大切さに気付かせることは意義深いと考える。

(イ) 本学級の児童は、学校生活にも慣れ、係り活動や当番活動、掃除などに意欲的に取り組むことができている。学習では、発表やノート書きを頑張ったり、課題解決に向けて考えたりしている姿も多く見られるようになってきた。自分にはやらなければならない勉強や仕事があり、それを行わなければならないことは理解しているといえる。一方で、あさがおの水やりや花の数調べを続けることができなかつたり、時間の経過とともに係活動に取り組むことが少なくなつたりと、やらなければならないとはわかっているにもかかわらず最後まで続けることを苦手とする姿も見られる。算数の学習においては、わからないところがあるとそのまま書こうとしなかつたり、与え

られた計算練習を最後まで終わらせようとせずに、途中で鉛筆が止まったりする児童もいる。

そこで、やらなければいけない勉強や仕事を、途中でくじけないでしっかりと続けようとする態度を育てることは、本学級の実態に則したものであると考える。

(ウ) 本時指導にあたっては、資料「1にち10ぶん」を活用し、主人公であるみどりの気持ちを共感的にとらえさせながら、自分でやるべきことを続けることの大切さに気付かせたい。本資料は字を書くことが苦手な主人公のみどりが、先生の言葉に従い字の練習を続けるが、変化が見られずに「やめよう」という心と葛藤しながらも頑張り続け、先生からの賞賛の言葉で成果に気付くという内容である。低学年の児童は教師が指示したことを守ろうとするが、単に「先生に言われたから」と自分の課題として捉えていないことが多い。その結果、困難であったり楽しくなかったりすると、途中であきらめてしまうこともある。みどりが自分の目的を実現するために、葛藤しながらも頑張り続ける姿を共感的にとらえさせることで、自分の弱い心や最後まで頑張ることの大切さに気付かせることができる。また、教師の賞賛より、頑張っただけには、成就感や満足感があることに気付かせることもできる。よって、本資料はねらいを達成する上で効果的と考える。

そこで、本時指導では、まず導入段階で算数科学習の中でカード練習を毎日続けているときの気持ちを振り返る時間を持ち、何かを続けることの難しさや、だんだんとできるようになっていった時の喜びを想起させたい。資料中の登場人物を紹介する。このことで、ねらいとする価値への方向付けを図る。次に展開前段では、紙芝居を使い資料の場面をよりとらえやすくすることで、心が揺れながらも字の練習を続けるみどりの気持ちに共感させていく。また、やめようと思った時と先生から賞賛された時のみどりの心を表情で表すようにし、お互いに見合いながら思いを発表することで、視覚的に心の変化がとらえられるようにする。そして展開後段では、くじけずにやり通してできるようになったことや嬉しかったことを振り返らせる。終末では、やるべきことはくじけずに続けていこうとする実践への意欲を高めるために、続けて取り組んだことで達成感や成就感を得た教師の説話を挙げる。

4 準備

写真（算数科学習時の児童のようす） 紙芝居 板書用短冊 道徳ノート 心のノート

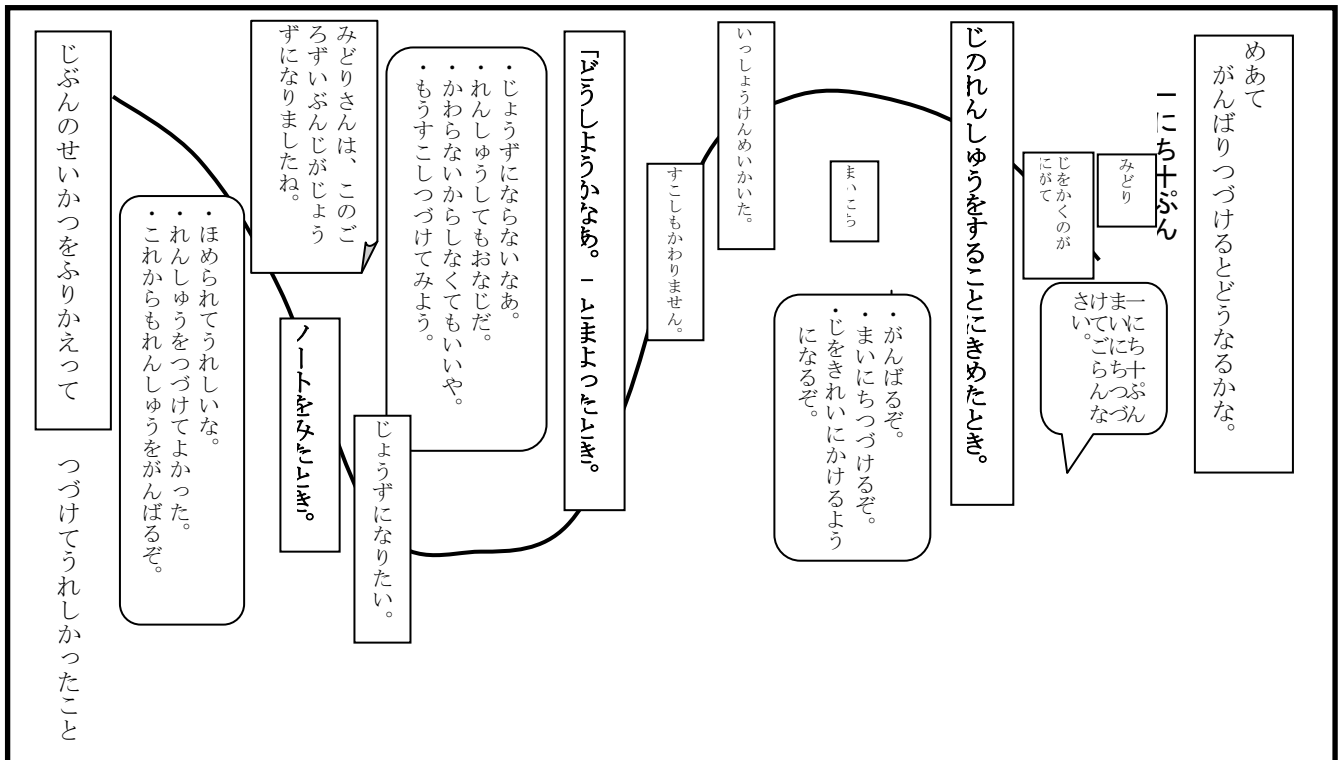
5 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入	1 算数科学習で計算カードの練習に取り組んでいる時の気持ちを想起するとともに、本時めあてについて知る。 ・ きつかった。 ・ むずかしかった。 ・ たのしくなってきた。 ・ できるようになってうれしくなった。	※ 計算カードの練習に取り組んでいる時の写真を提示し、気持ちを想起しやすくする。	○ 毎日続けている計算カードの練習で、頑張っている自分を振り返っている。 （発言・つぶやき） ○ 題名とめあてから、これから学習する道徳的価値をとらえている。 （態度・つぶやき）
	がんばりつづけるとどうなるかな。		

展 開 前 段	<p>2 資料「1にち10ぶん」を読み、みどりの気持ちについて話し合う。</p> <p>(1) 教師の範読を聞く。</p> <p>(2) 毎日10分ずつ字の練習をすることに決めた時のみどりの気持ちを話し合う。</p>	<p>○ 資料中の登場人物や場面の状況を児童に紹介することで、ねらいとする価値に注目させ、資料への導入を図る。</p> <p>○ 資料への関心を高め、内容をわかりやすくとらえさせるために、紙芝居で資料を提示する</p>	<p>○ 範読を聞き、話の内容をとらえている。 (発言・つぶやき)</p>
	<p>毎日10分ずつ字の練習をすることに決めた時のみどりさんは、どんな気持ちでしょう。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ がんばるぞ。 ・ 毎日練習を続けるぞ。 ・ 絶対に字をきれいに書けるようになるぞ。 <p>(3) 「もうやめよう。」と思った時のみどりの気持ちを考える。</p>	<p>○ 毎日練習を続けようと思ったみどりの気持ちに寄り添うことができるように、「まいにち」という言葉を板書に位置づけて押さえる。</p>	<p>○ これから頑張ろうとしているみどりの気持ちをとらえている。 (発言)</p>
	<p>「どうしようかなあ。」と迷った時のみどりさんは、どんなことを考えていたでしょう。</p>		
	<p>○ みどりの気持ちを表情で表すとともに、道徳ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私は字がへたなんだ。 ・ ぜんぜん上手にならないなあ。 ・ すこしもかわらないからやめてもいいや。 ・ もうすこしつづけてみよう。 <p>(4) 先生が書いていたコメントを見た時のみどりの気持ちを考える。</p>	<p>○ 字の練習をやめたくなくなった主人公の気持ちに共感させるために、表情で表すようにし、思いをとらえやすくする。</p> <p>○ やめようと思ったが、「じょうずになりたい。」という強い思いから練習を続けた、みどりの行動をおさえる。</p>	<p>○ 続けていることが結果として表れずに、くじけそうになっているみどりの気持ちをとらえている。 (表情・発言・道徳ノート)</p>
<p>先生が返したノートを見たときのみどりさんは、どんな気持ちでしょう。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 誉められてうれしい。 ・ 練習を続けてよかった。 ・ これからも練習をがんばるぞ。 	<p>○ 先生の賞賛の言葉を見たときのみどりの気持ちをとらえやすくするために、コメントを拡大して提示する。</p> <p>○ 続けることのよさに気付かせるために、先生のコメントを見た時のみどりの気持ちを表情に表わさせ、やめようと思ったときの表情から変化していることをおさえる。</p>	<p>○ くじけずに字の練習を続けたことで先生に賞賛され、練習の成果に気付いたみどりの気持ちをとらえている。 (表情・発言)</p>	

展開後段	3 今までの生活の中で、続けたことでうれしい気持ちになったことを発表する。	○ 続けたことでうれしくなった経験を想起しやすくするために、心のノート (P18・19) の挿し絵を基にして道徳ノートに記入させる。	○ 日常生活の中での自分の生活をふりかえっている。 (発言・つぶやき)
終末	4 教師の話を書く。	○ 教師が子どもの時に、あきらめずに続けてうれしかった経験を話し、今後の生活への意欲付けを図る。	○ 本時でねらいとしている価値について、今後の生活の中に生かそうと意欲をもっている。 (表情・つぶやき)

6 板書計画



7 道徳ノート

